

第23回市民との意見交換会・報告書（町北・高野地区）

開催地区：町北・高野地区	開催日時：令和元年11月14日（月）18時00分～20時10分
担当班：第2班（出席議員）成田芳雄、目黒章三郎、樋川 誠、譲矢 隆、原田俊広、高橋義人（欠席議員）なし	
開催場所：北公民館	
参加人数：男性15名、女性0名、合計15名（うち班外議員0名）（他自治体等傍聴者1名：新潟市議会）	
<p>1. 議会報告、市政全般についての総括</p> <ul style="list-style-type: none">・外国人観光客が増えてきている。外国語表記の看板を増やすべきであるとの意見があった。・国道49号、インター南部幹線、国道118号西バイパスへのアクセス道路を利用する車両が多くなっている。安全対策の要望があった。 <p>2. 地区別テーマでの意見交換についての総括</p> <p>(1) 地区別テーマ 「少子高齢化対策と地域づくり」</p> <p>(2) テーマ設定の理由、背景 農村地域の町北・高野地区は、市街化調整区域の優良農村地域である。今後、次世代へ持続可能な地域を創るにはどうしたら良いのか、地元住民、市、市議会も共通のテーマとして考えていくため設定した。</p> <p>(3) 主な地域課題 優良農村地域であるが後継者の問題、市街化調整区域のため住宅建築の制限、子どもが少なくなり学校統合の問題を共通認識として、今後の地域づくりを地区のさまざまな団体と情報共有して、何ができるのか検討していかなければならない。</p>	

○ 議会報告(定例会、政策討論会など)、市政全般(テーマ以外)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	分類	番号	備考	※項目 キーワード
最近インバウンド政策に伴い、多くの外国人観光客が会津若松市に訪れている。しかしながら、外国語表記の案内看板が少ないと感じる。もっと増やすべきである。	ご意見として伺う。	○	②		観光
半導体関連会社や会津大で働く外国人も、会津若松市に中長期で滞在されている人は多い。外国語表記の看板を増やしてほしい。	家族観光、歴史を学びたい等で訪れる志の高い外国人観光客や市内滞在している外国人に対して、外国語表記看板を増設していくことは大事である。当然ながら看板を増やすことは予算が必要である。例えば最近の議会質問から、宿泊客が支払う入湯税を原資として、これらを整備することを質問されている議員もいる。ちなみに、例年宿泊観光客は平均70万人である。	○	①		観光
国道118号西バイパスが整備されたが、国道49号が慢性的な渋滞が朝晩発生している。国道49号への各アクセス道路に対して右折ラインを設けるなど全体的な道路網に沿った、単なる道路整備だけでなく全体的な車の流れなども考慮して計画整備してほしい。	国道49号は国直轄で進める事業である。今後、縦貫北道路と西バイパスのアクセス工事、新阿賀川の橋りょうの完成も近いことから、慢性的な渋滞緩和は解消されると判断している。	○	①		道路
国道49号へアクセスする国道121号上、ゼビオ、ソフトバンク、ダイエーパチンコ付近の交差点で渋滞が発生している。特に、喜多方面からは近隣から複数の幹線道路が交わることで慢性的な渋滞が発生している。ぜひ緩和をお願いしたい。	駅裏から国道49号につながる道路は市道幹I-6号線であり、ソフトバンク側とゼビオ側に右折ラインを設け、幅員の拡大も図る予定である。現在用地買収等を含め、年次計画のもと水路の付設替え整備などを行っている。このことにより慢性的な渋滞緩和は解消されると判断している。	○	①		道路

○ 議会報告(定例会、政策討論会など)、市政全般(テーマ以外)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	分類	番号	備考	※項目 キーワード
<p>ダイエーパチンコ店南側からインター南部幹線道路に抜ける道路(市道「町3-83」)の幅員と側溝整備が行われた。これは地区から要望であり整備していただきありがとうございました。しかしながら、朝晩この先の「中ノ明」地域を迂回路として通行する車両が多くて危険である。子どもたちの通学路でもあるため何とかしてほしい。</p>	<p>インター南部幹線道路を含め朝の渋滞時、隣接町内の「中ノ明」地域内を走行する車両は多いと伺っている。現段階では交通規制を図るのも困難なため、地元区長会や交通安全協会と連携を図って安全対策を進めていただきたい。</p>	○	①		交通安全 道路

○ 地区別テーマでの意見交換について → 少子高齢化対策と地域づくりについて

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	分類	番号	備考
	本日は、少子高齢化対策と地域づくりをテーマとして、市民の皆様から率直な意見をいただきたい。			
町北・高野地区は永年人々が住み続けられる地域として行かなくてはならない。そのためにも、地域、市、市議会が一体となって取り組んでいく必要がある。永和地区は今年度から「地域づくり委員会」が発足した。湊などの事例を参考にして我が地区ならではの地区を創って参りたい。そのためにも地域住民の意識改革が必要と感じている。特に30代、40代の保護者やPTA役員、子ども育成会、青少年健全育成推進協議会の皆さんと数多く協議の場を持って進めていきたい。その意味から持続的に町北・高野は「少子高齢化対策と地域づくりについて」をテーマとしている。ぜひ活発な議論をしていただきたい。	ご意見として伺う。	○	②	
会津若松市内には働く場所、雇用の場が少ない。だから高等学校を卒業すると会津若松市から出て行ってしまう。ここ町北・高野地区は優良農村地域の指定を受けているが、いまや専業農家では暮らしていけない時代となった。ゆえに専業農家から兼業化していく必要があり、そのためにも働く場所が必要である。	ご意見として伺う。	○	②	

○ 地区別テーマでの意見交換について → 少子高齢化対策と地域づくりについて

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	分類	番号	備考
ハードボードの跡地の利活用は決まったのか。まとまった土地があるので、有効に土地を利用していたら、会社を誘致していただきたい。	現在、門田徳久工業団地は完売した。市としては新たな候補地を調査中である。また、本年4月には日本たばこ産業株式会社の跡地を利用してICT関連企業を入居させる「Aict」を立ち上げた。入居企業も17社、200名あまりが雇用されている。市内、求人倍率は1.5を上回っている。人手不足している企業もたくさんあるが、求人とマッチングでき得ない状況にある。ハローワークの問題もある。	○	①	
少子高齢化対策は、国全体で考えていくべき問題でもある。国の経済政策の一環として議論していくべきことでもある。日本の歴史を考えると島国ながら資源の無い中で経済大国となった経過にある。持続的な人口減少問題と高齢化社会に立ち向かうためにも、国が責任を持ちながら地方と進めていただきたい。	ご意見として伺う。	○	②	
市街化調整区域における人口減少を緩和する方策として、空き家となった農家住宅を賃貸住宅として貸し付けることができないか。	後日調査して報告する。	○	③	後日調査し、事後報告する。 (事後処理報告書P8に記載)
農地を基盤整備した後であっても、その後売却などができないのか。	個人や法人の方が、農地を売買又は貸借する場合には、農業委員会等の許可を受ける方法と、市が定める「農用地利用集積計画」により権利を設定・移転する方法がある。	○	①	

○ 地区別テーマでの意見交換について → 少子高齢化対策と地域づくりについて

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	分類	番号	備考
<p>どうしても土地所得者は安価な地域を買う傾向にある。特に門田地区や一箕地区の開発は進んでいる。町北・高野地区は優良農地と指定されていて開発が遅れている。</p>	<p>ご意見として伺う。</p>	○	②	
<p>下荒久田地区の地区計画の進展がないと感じる。</p>	<p>地区計画は、安全で快適な町並みの形成や、良好な住環境の保全などを目的に、一体的に整備・促進を図るべき地区について、地区の特性を生かした、きめ細やかなまちづくりを行うために、「地区」レベルでルールを定める制度である。本市では、18地区の地区計画が定められている。その上で、ぜひ、地区計画は不動産コンサル等の力を借りて計画を作成していくべきである。また、行政として都市計画マスタープランがあり10年に一度改訂を行っている。本年は中間年にもなるので、地区計画の見直しを含め農地開発、土地利用等を決めていくべき時期になったと思う。</p>	○	①	
<p>下荒久田地区の地区計画は平成25年からスタートしたが、この地区は豊かな田園地帯に囲まれていて、旧国道121号（市道町3-115号線）沿いには店舗や事務所、工場なども多く、田園と都市的な土地利用が混在した地域となっている。農業集落を中心に活動しているが、近年、地区へ定住する若者の減少や住民の高齢化により、町内会の運営や消防団活動等が難しくなっており、地域社会の衰退が懸念されている。</p>	<p>しかるべき不動産コンサル等を巻き込んで地区計画を作成していくべき次期にきたと考える。</p>	○	①	

○ 地区別テーマでの意見交換について → 少子高齢化対策と地域づくりについて

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	分類	番号	備考
少子化の影響で、永和小、神指小、第6中の児童・生徒が減少をしている。このままだと2校の統合小学校も具体的に考えて行く必要があると思う。	令和元年度の現状、永和小は95名、神指小90名、第6中学校は87名の児童・生徒数である。令和6年度までの推計から永和小、神指小の増減は横ばいとされている。しかしながら、そのようなご意見があると受け止める。	○	①	
地域と学校が一体となって行うコミュニティ・スクールの導入は良い事業である。今後、町北・高野地区内の学区含め検討していかなくてはならない。	市は今年度から近年の経済社会構造の変化とともに、子どもを取り巻く環境が変化し、学習意欲の低下、生活習慣の未確立等の課題が顕在化している。その上で学校運営及び教育に関して、地域、保護者等の意識は多様化している。こうした状況を踏まえ、地域住民、保護者等の学校運営への参画を通じて、一層地域に開かれ、信頼される学校とするため、地域とともにある学校づくりを推進している。残念ながら、今年の事業計画には第6中学区は入っていないが、市として今年からスタートさせた事業なので経過を注視していきたい。	○	①	
兵庫県明石市では子育て支援に本腰を入れた政策で、子育てしやすい市として有名である。ぜひ会津若松市も見習っていただきたい。	ご意見として伺う。	○	②	

市民との意見交換会・事後処理報告書

町北・高野地区

件名	処理（対応）内容	備考
<p>1. 市街化調整区域における農地付き空き家の賃貸貸付及び、希望する場合の取得農地面積の緩和策について (P 5)</p>	<p>【市民からの要望・質問】 市街化調整区域における人口減少を緩和する方策として、空き家となった農家住宅を賃貸住宅として貸し付けることができないか。</p> <p>【事後処理結果】 ・11月19日に農業委員会に確認したところ、調整区域における緩和については、平成21年に農地法の一部改正があり、一定の要件を満たせば各自治体において基準面積を緩和できることとなった。市農業委員会としても法改正にあたり種々検討したが、農地の集約率が高く・経営農家一戸当たりの耕地面積が比較的大きい・耕作放棄地面積が少ないなどの理由により、基準の緩和はしていない。ただし、1年ごとに見直しが行われることとなっているので、検討してまいりたいとの回答があった。 ・11月19日に都市計画課に確認したところ、賃貸の件は、平成28年12月27日付の国土交通省都市局長通知により「開発許可制度運用方針」が一部改正されました。以下に概略を記載します。 ①賃貸住宅への用途変更の場合、建築物の所有者の変更は相続以外原則認めない。②用途変更した賃貸住宅は、定住又は2地域居住を目的としたものであること(転勤などの短期の移住者は除く)。③一般住宅から賃貸住宅に用途変更する場合は改めて開発審査会の審議を経ること。となったものであり、この条件をクリアすることが基本となる。</p> <p>【今後の対応】 今後、本市としても、農地や空き家の有効活用を進めていく上で国の法律を遵守しながらも利活用できる政策を考えていきたい。</p>	